

を通じ、発信していきたい。

市民の中にも、違いや縦割りの垣根を越えた、新しい水準の協同と連帯の力が求め

られている。誇りと希望をかけた冬の陣が始まる。

📖 研究所だより

関 智子

月日の流れは早いものでもう11月も半ばに差し掛かりました。現在は目前に迫った協同集会の最終的な段階に入っているところです。11月に入り、気候もぐっと寒くなってきました。風邪など体調には十分留意したいですね。

さて、皆さんは「隣人祭り」を知っていますか？ 前号でも紹介しましたが、隣人祭りとは、パリで発祥した近所の住民同士が食べ物を持ち寄りながら楽しく語り合うものです。

10月13日に、東京の築地本願寺において隣人祭りが開催され、参加してきました。日本での隣人祭りは、有限責任中間法人人口ハスクラブが隣人祭り日本支部を立ち上げ、隣人祭りの情報提供や広報活動を行っています。13日の隣人祭りは、地域の人たちが築地本願寺をもっと身近に感じ、気軽に来られる場所になってほしいという想いがあり、開催されました。

当日は、晴天の中、僧侶による雅楽の演奏があり、昔の本願寺の貴重な映像を見たりしながらの隣人祭りとなりました。参加した方々は築地の町内会や地域に住まれている方(古くからの住人というよりもマンションなどに新たに引っ越してきた方が多かったようです)、学生、僧侶の家族な

どいろいろな方々が集まっていました。また、雑誌やラジオもいくつか取材に来ている中での隣人祭りとなりました。

隣人祭りではついつい時間も忘れ、話し込んでしまいました。お話をした方の中では、毎月本願寺で行われるイベントに参加していて、もっと多くの方と知り合いたいからと参加された檀家さん、50歳になってひとりで地方から東京に引越しをしてきたという方、さまざまなメディアで取り上げられている隣人祭りに興味を持ち、参加したという学生さんなどがいらっしやり、中には参加された方で折り紙のとても上手な方が、小学生の子供に教えている姿も見られました。隣人祭りでの出会いからの交流をたくさんすることができました。

隣人祭り終了後、隣人祭り日本支部の加藤弓子さんにお話を聞くことができました。隣人祭りは、世界29カ国では、同日同時刻(5月の最終火曜日)に開催しているのですが、日本では、まずは「隣人祭り」を広めることを目的に、日時にこだわることなく開催していること。原則として、商品の販売やサービスの紹介など営利目的で人を集めることはしないというルール以外は、どんな形で開催してもいいということ。隣人祭り日本支部では、隣人祭りに賛同い

ただいているコンシェルジュのサポートをする形で全国各地で隣人祭りを広めることを目指していることなどのお話を伺いました。

その他に、人間同士のつながりがだんだん薄れていく中で、再度つながりを見つめなおすために隣人祭りを開催すること、隣人祭りを一度開催しただけにとどまらず、継続的に開催してほしいこと（もちろん一度開催した人たちが仲良くなったからといって、その人たち同士だけで行うのではなく、多くの人たちに気軽に参加してもらえるように継続すること）、隣人祭りは、マンションの管理組合や町内会とは異なりゆるい感じで人とつながるといことが重要であること。隣人祭りで出会った人たちと絶対仲良くならなければならない、ということではなく、隣人祭りに参加して近所にどんな人が住んでいるかを知って「この人とはもっと仲良くなりたい」や「この人とは挨拶程度でいいだろう」という「人と自分との距離感」を図る目的の一つの手段としても隣人祭りがあること（今はそのような距離感を見つける機会さえもないので）、などのお話を聞くことができました。

加藤さんは、何回も継続的に隣人祭りを行うことによって、地域や商店街の活性化にもつながってほしい、より多くの人に隣人祭りを知ってもらい、全国各地で定期的に隣人祭りを開催してもらうことが目標ですと、話されました。

映画「ALWAYS三丁目の夕日」や「昭和レトロ」がはやっていますが、そこには

現在失われてしまった「人と人の絆」があり、それを求めている人がとても多いという現状があります。それとは反対に、現在は個人情報保護やプライバシーなど極端な方向に向いている部分もありますが、どこかで人は人とのつながりを求め、何らかの形でかかわりたい、だけどこかわり方がわからない、そのための手段の一つとしての隣人祭りへの関心も高くなっているのかな、と感じることができました。加藤さんが話された「現代は人と人の距離感が選べる時代」という言葉に印象を持ちました。『隣人祭り』の中でも著者が「人とのつながりは程よい関係性で」という部分がありますが、昔の映画などがはやっているからといってそれをそのまま現代に持ち込むということではなく、まずはきっかけをつくって、そこから行動してみるといことなのかな、と感じました。

「ワーカーズコープが指定管理者として運営している児童館や、地域センター、老人福祉センターなどでもぜひ隣人祭りを行ってほしい」と話され、私たちの取組みや地域(利用者)懇談会の話もすることができ、また、ここには書ききれませんが、隣人祭りのことだけではない、農業のことや若者の就労の問題など(多少脱線してしまった?)お話もたくさん加藤さんとすることができ、充実した1日となりました。

隣人祭りは本当に各地で行われています。興味のある方やもっと隣人祭りのことを知りたい方は、隣人祭り日本支部のホームページ(<http://www.rinjinmatsuri.jp/main/>)や、

新書『隣人祭り』(木楽舎刊)を見てください。
12月には新書『隣人祭り』の著者ペリファ

ン氏が来日し、千代田区主催での隣人祭り
も開催される予定です。

新入会員(2008.10.1 ~ 10.31)

井上 洋一さん(学生)

関心事項：障がい者の就労、協同組合や
社会的企業による障がい者の労働への参加。

入会動機：大学院で障がい者の就労(労働)
問題を勉強しています。福祉的就労と

一般就労との間に協同組合や社会的企業な
どによる『社会的雇用就労』の領域を設け、
労働の場を実現することができるのでは、
と考えています。

研究所活動日誌

- | | |
|---|--|
| 10/01(水) 明治大学中川先生打合せ(田嶋、榎本)
/センター事業団学習会(福島理事) | ／法制化地域市民集会(大田区/
関、榎本) |
| 10/02(木) 第56回法制化市民会議幹事会
大熊宏先生懇親会(田嶋、古村:新潟) | 10/14(火) 阿部志郎先生(神奈川県立保健福祉
大学名誉学長)訪問(田嶋) |
| 10/03(金) 国内産米粉促進ネットワーク設立記
念セミナー(榎本)／連合新潟・新
潟労副協、FMポート訪問(田嶋、
古村、武田)／東京農工大協同研究
(福生・財政③) | 10/15(水) ケアワーカー集会参加呼びかけ(中
央区/田嶋、関、榎本) |
| 10/04(土) 法制化地域市民集会(東京三多摩エ
リア・一橋大学:島村、田嶋、関、
榎本) | 10/15(水)16(木) 食・農・環境事業グリーン
ファーム視察(古谷、小橋) |
| 10/05(日) 「新しい公共と市民自治」を考える研
究フォーラム(御茶ノ水・明治大学) | 10/16(木) 厚生労働省労働基準局労働者生活
部訪問(島村、田嶋) |
| 10/08(水) 夕張再生プロジェクト会議(島村、
田嶋) | 10/17(金) 木下安子先生訪問(田嶋、榎本)／東
京農工大朝岡研究室協同研究(東久
留米・WS③/榎本)／労協連情報
システム会議(田嶋) |
| 10/11(土) 菜の花プロジェクト種まき(芝山/
関、榎本) | 10/18(土)-19(日) 第4回「よい仕事」・清掃全
国コンテスト(田嶋、関、榎本) |
| 10/13(祝・月) 協同集会 in 福岡(田嶋)／隣人
祭り取材(築地本願寺/関、榎本) | 10/19(日) 新潟協同集会プレ企画協同労働法制
化学習会(新潟:島村、田嶋)／反
貧困ネット集会(榎本) |
| | 10/20(月) 連合新潟、自治労ほか訪問(田嶋他) |